ONCC 第 11 期　　～江戸時代にタイムスリップ～

テーマ：落語で知る江戸時代

＜2023 年 5 月 24 日（晴天）13：30～15：30　於：池田・落語みゅーじあむ＞

受講生 25 名 ＋ CA２名（廣瀬＆岸本の両氏）　計 27 名にてスタート　（担当：２班）

午前中、**やまだりよこ講師**より、本日のテーマ**「落語で知る江戸時代～上方落語に息づく浪花庶民の暮らし」**の講義を受け、午後に池田市立博物館、愛称「落語みゅーじあむ」正式名称**「上方落語資料展示館」**へ移動し先ずは、古典落語（演目：火焔太鼓）１ 席（出演者：猪名川亭㚐れ喜）鑑賞し、後半は館内展示物を見聞した。

当講座での学びは、江戸（265 年間）文化の中の「落語」が、大衆芸能として継承され発展、近代まで≒400 年 脈々と受け継がれた基軸は**江戸～明治大正時代の古典落語がベース**となったと言われる。その中にあって上方での落語は、元禄の頃に京や大坂から**辻噺**として広まり、後に寄席小屋で演ずる様な形に変移、噺も長くなり三味線など鳴物入りで娯楽性豊かな上方落語として発展した。この形は今日に至っても継承されている。

さて、今日訪問の**池田市**は、**「池田の猪買い」「池田の牛ほめ」**など、地名との係わりある古典落語の縁から、これ等の伝統的文化を受け継ぎ、観光振興に役立たせることを目的に資料館を設け、愛称「落語みゅーじあむ」名のもと観光施設として運営されている。

入館正面に**高座を配し**、お囃子道具も揃った **50～60 人の客席**の構えで、煌びやかな舞台配置になっている。

２階には落語に関する**資料が≒1,000 点**収集されており、書籍の閲覧や CD や DVD の視聴コーナーが設けられている。その他、隣接のコーナーには、長火鉢に和箪笥、畳など、**噺家の楽屋**を再現展示しており、今にも師匠の甲高い呼び声が聞こえてきそうな雰囲気を醸し出している。

尚、お馴染みの**落語家・桂三枝（現・桂文枝）師匠**が、当初より名誉館長に就任、今もプロ志願の落語家が 75 名（指導者３名）養成指導を受けている。アマチュア落語家の講座も開かれている。

上方落語資料展示館（愛称：落語みゅーじあむ）

１階

落語みゅーじあむの全景

高座前での館内説明

舞台の一部とお囃子

２階

落語関連書籍

噺家の楽屋

文枝師匠の楽屋暖簾